

荒子川へテラピアを探しに行って参りました。

平成21年5月27日 天気 晴れ 水温 18℃

技術士（衛生工学） 本 堀 雷 太

荒子川について

荒子川は名古屋市西部を流れる全長8km程の典型的な都市河川で、下流部は荒子川公園として整備されている(右写真)。

上流部に工場の温排水が流れ込む影響で、本来日本には生息しない熱帯性のナイルテラピアが繁殖している。ナイルテラピアは我が国でも食用として温泉地などで養殖されているが、荒子川にも何らかの形で人為的に持ち込まれたと思われる。

またテラピア以外にも典型的な外来魚であるカダヤシ(タップミノ)やブルーギル、雷魚(カムルチー、タイワンドジョウ)が繁殖している。さらに過去には、ピラニア幼魚の捕獲やアリゲーターガーの目撃例もあり、荒子川はまさに外来魚の見本市のような状況にあるといえよう。



荒子川のテラピアです。こんな群れがウヨウヨいます。



ナイルテラピアは雑食性で有機物や付着藻類、プランクトン、底生生物等を食べている。耐塩分性があり、汚濁にも強いが低温には弱く、国内では温泉地や湧水地、工場排水流入水域に生息が限られている。外来生物法では要注意外来生物に指定されている。

せっかくなので、釣ってみました。ブルーギル(下右写真)やモツゴ、コイ、マフナも釣れました。



ナイルテラピア



ブルーギル